

基本方針	基本目標	施策	主な取り組み(事業)	令和6年度 事業内容と実施状況	教育振興基本計画の成果指標					事業評価	評価の説明、課題と改善策	外部評価委員の意見	
					項目	R03現状	(R04目標) R04現状	(R05目標) R05現状	(R06目標) R06現状				R07目標
1 社会を生き抜く力の育成	①学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む教育	1 基礎学力定着のための環境整備	・「GIGAスクール構想」を踏まえ、今後のICT機器の導入・更新の年度整備計画を策定する。	MDM化、i-filterの導入	ICT環境整備計画策定・実施	未策定	(実施・見直し) 未策定アンケートのみ実施	(実施・見直し) 未策定	(実施・見直し) 一部策定 全体計画未策定	実施・見直し	C 課題あり	コンテンツごとの方針整理はできているが、国が示したガイドラインや整備方針を活用して作成することができていない。GIGAスクール構想による年度計画スケジュールには共同調達という形で参加しているが、今後の町の見通しを盛り込んだ整備計画を策定する必要がある。	
		2 「個別最適な学び」のための教員の授業力向上	・学力育成策について、指導主事が指導助言・OJTの推進	町内4校に2回ずつの訪問を実施	指導主事の(学力育成のための)年間学校訪問回数	8回	(8回) 8回	(8回) 8回	(8回) 8回	8回	B 概ね期待どおり	目標通りとなった。今後も指導主事派遣の事業がある限りは継続する。	事業評価Aでもよいのではないかと意見がでたが変更なし
		3 家庭学習の習慣化	・家庭学習時間の確保と内容の充実 ・タブレット端末の家庭学習での活用 ・学習支援館での学習サポート	学習課題の精選 タブレット端末の活用 チャレンジ週間などによる生活リズムの見直し	平日1時間以上学習している児童の割合(小学校6年生)	40%	(56.0%) 54.5%	(59.0%) 53.4%	(62.0%) 56.2%	65%	C 課題あり	平日のゲームをはじめとするメディア接触時間、家庭学習のあり方について家庭を巻き込んだ取り組みができていない。 参考: 平日のゲーム時間 4時間以上と答えた割合31.3%	
				4年度から任意とし実施になったため、塾生を中心に薦めたが、今年度も減少の傾向が見られた。	学習支援館による全国模試の受験率	32.1%	(48.0%) 15.9%	(52.0%) 10.5%	(56.0%) 10.7%	60%	C 課題あり	平日のゲームをはじめとするメディア接触時間、家庭学習のあり方について家庭を巻き込んだ取り組みができていない。 参考: 平日のゲーム時間 4時間以上と答えた割合20.6%	
	4 読書活動の推進	・小中学校における読書活動の推進 ・学校・図書館連携による読書活動の推進	朝読書・ボランティアによる読み聞かせなどによる読書習慣作り 図書館を活用した授業の実践	平日30分以上読書している児童の割合(小学校6年生)	51.4%	(31.0%) 43.1%	(32.0%) 33.3%	(33.0%) —	35%	C 課題あり	登校時間変更等もあり、朝読書や読み聞かせの時間が削られた。日常生活でも読書週間が減少傾向にある。成果指標となる質問項目はなかったが、家に紙の本がある、という環境そのものが変化している。学校・町立図書館が連携し、読書機会を作り出す工夫が必要である。同時に大人への取組も必要である。 参考: 家にある紙の本が25冊以下…小50%、中61.7% 新聞を全く読まない…小87.5%、中88.2%		
			平日30分以上読書している生徒の割合(中学校3年生)	37.1%	(31.0%) 32.6%	(32.0%) 23.3%	(33.0%) —	35.0%	C 課題あり				
	②情報活用能力の育成	5 GIGAスクール構想の推進	・ICT教育推進ビジョンの策定と推進 ・ICTを活用した授業づくり ・オンライン学習のための環境整備とスキル向上 ・プログラミング学習の充実 ・教職員・保護者の情報リテラシー及びICT活用能力の向上	美郷町ICT教育推進ビジョンに沿って実施 情報モラル教育に関する教職員研修を実施した。	美郷町ICT活用能力育成計画の策定・実施	策定	(実施・見直し) 実施	(実施・見直し) 実施・見直し	(実施・見直し) 改訂に向けた協議実施	実施・見直し	B 概ね期待どおり	美郷町独自のビジョンを打ち出しているが、毎年見直しが必要である。ICT教育推進会議で学校にも意見をいただきながら見直しを継続していく。	
		6 学校図書館活用教育の推進	・学校司書の配置と学校図書整備	町内全ての学校に学校司書を配置 小学校では、学校司書と担任が協力し、授業の内容に関連した図書を資料として活用した。 中学校でも同様に図書を資料として活用したが、教科担任制となるため授業計画との調整が図りにくい状況があった。	学校図書館の資料等を活用した年間授業数(小学校)	55時間	(65時間) 58時間	(66時間) 121時間	(68時間) 290時間	70時間	A 期待どおり	学校経営の重点等の中に学校図書館活用位置付けている学校が取り組みを強化している。図書資料とインターネット、目的に応じた使い方を児童自身が選び取る力の育成が求められる。	
	③すこやかな心と体の育成	7 実体験活動、道徳教育の推進	・自己肯定感を高め、他者理解を図る道徳教育の推進	学力調査やQ-Uアンケートによる実態把握に基づいた指導の実施 人権教育・理解教育の推進	自分にはいいところがあると感じている児童の割合(小学校6年生)	62.8%	(84.0%) 65.9%	(86.0%) 63.3%	(88.0%) 65.7%	90%	C 課題あり	両校比較的落ち着いた学校生活が送れてはいたが自分の気持ちを相手に伝えることが苦手とする児童が一定数存在する。また保育園から頭ぶれが変わることが少ないため、関係性が固定化されており「言わなくても分かる」という空気がマイナスに作用していると考えられる。	
				自分にはいいところがあると感じている生徒の割合(中学校3年生)	80.0%	(69.5%) 74.4%	(71.0%) 76.7%	(73.0%) 67.7%	75.0%	C 課題あり	学校生活に満足している生徒と不満を抱く生徒の二極化が激しい。(分析母数が少ないため客観的なデータとして有効ではない部分あり)自己理解教育を通じ自分自身に対しての肯定的な感情を高める指導の積み重ねる必要がある。		
		8 学校・家庭・地域連携で体力向上、健康の増進	・保小中家庭が連携して運動意欲や体力向上 ・公民館や地域のイベントを通じて地域で健康増進、子どもたちの体力向上	授業前のトレーニング、記録カードの活用 運動量を確保した体育授業の実践 児童の委員会活動による体力向上の集会	全国体力・運動能力調査における体力合計点(小学校5年生)	55.4点	(58点) 54.5点	(59点) 50.0点	(59点) 59.0点	60点	B 概ね期待どおり	点数としては達成しているが、通学がバスであることや猛暑による運動の中止、休日のメディア接触時間の多さも含め、日常生活の中で体を動かす機会がより減少傾向にある。体育の授業以外で体を動かす取組が必要となる。	
				授業前のトレーニング マラソン大会等の実施 生徒会主催のスポーツ大会	全国体力・運動能力調査における体力合計点(中学校2年生)	45点	(43点) 39.6点	(45点) 52.0点	(47点) 43.0点	50点	C 課題あり	通学がバスであることや猛暑による運動の中止、休日のメディア接触時間の多さも含め、日常生活の中で体を動かす機会がより減少傾向にある。体育の授業や部活動以外で体を動かす取組が必要となる。	
9 いじめや不登校が起きない学校づくり		・望ましい学級集団づくり、いじめの早期発見適切な対応 ・SCやSSWと連携して不登校対策	各校での職員間の共通理解を初め、校内研修、道徳や学級活動における指導、相談体制の充実、いじめ防止基本方針の点検と見直しをし、組織的に対応している。	いじめの認知件数のうち、解消したものの割合	85.7%	(94.0%) 78.9%	(96.0%) 79.0%	(98.0%) 75.5%	100.0%	C 課題あり	経過観察期間が満了していない事案があるため、未達となっている。各校職員間の共通理解をはじめ、各校でいじめ防止基本方針を策定し、組織的に対応している。		
			町内小・中4校の就学時検診時、1日入学時、保護者へ説明した。また、大和地域の民生児童委員協議会開催時に制度説明を行った。	就学援助制度の年間周知回数(新規)	4回	(4回) 6回	(5回) 6回	(5回) 6回	6回	B 概ね期待どおり	繰り返し周知することで、対象となる可能性のある家庭から申請があがってくる傾向になっている。		
④個性や主体性・多様性を活かし伸ばす教育	11 インクルーシブ教育の強化	・子どもたちの特性や背景を理解する方法や能力を高める研修の実施	当初12月開催を予定していたが、講師の都合がつかなくなった。代替日を検討したが開催候補が年度末しかなく教職員の異動や新年度準備と重なるため調整ができなかった。	特別支援教育に関する研修会の実施	未実施	(1回) 未実施	(1回) 未実施	(1回) 未実施	1回	C 課題あり	美郷町特別支援教育連携協議会が実施できていない。令和7年度は四半期に一度の担当者会を設けて実施に向けて協議していく。		
			年度当初の相談会予定周知及び毎月の実施日に向けたチラシ配布を行った。	教育相談会の年間周知回数	11回	(12回) 11回	(13回) 10回	(14回) 9回	15回	C 課題あり	IP告知、広報周知は未実施。定期相談については告知前から保護者から相談希望が早く入り枠が埋まってしまい、積極的な告知が打てない状況があった。保護者、教職員への事業内容の周知はできていると肯定的にとらえ、引き続き定例の告知を実施していく。		
	12 異文化への関心を高め、国際感覚を醸成	・英語助手や国際交流員の学校・地域での活用 ・オンライン英会話教室等、英語教育の充実	ALT2名配置 国事業による学習者用デジタル教科書配布	英語の勉強が好きだという児童の割合(小学校6年生)	74.3%	(62.0%) 設問なし	(65.0%) 56.7%	(67.0%) —	70.0%	C 課題あり	英語を「コミュニケーションツール」と捉えられていないと推察される。英語が話せたら、書けたらどんないい点があるか、という問いかけが必要と考える。教科書内容はもちろんだが、多様な国からALTが派遣されているので異なる国の文化を紹介したり、授業以外でもALTとコミュニケーションする機会を創出する。		
		ALT2名配置 国事業による学習者用デジタル教科書配布	英語の勉強が好きだという生徒の割合(中学校3年生)	31.4%	(55.5%) 設問なし	(57.0%) 40.0%	(58.5%) —	60.0%	C 課題あり				

基本方針	基本目標	施策	主な取り組み(事業)	令和6年度 事業内容と実施状況						事業評価	評価の説明、課題と改善策	外部評価委員の意見	
				項目	R03現状	(R04目標) R04現状	(R05目標) R05現状	(R06目標) R06現状	R07目標				
2 未来を担う 人材の育成	①美郷町への愛着と理解	13 学校の学びと地域社会のつながりを感じて主体的に学ぼうとする取り組みの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館ふるさと教育の推進 ・地域資源を有効に活用した体験学習の展開 ・保小中12年間のふるさと教育の体系化・系統化 ・学校給食における地場産品の活用と食育 	公民館合同で「ランタン作りと天体観測会」を実施した。各公民館においては、大人対象の講座や子どもを対象とした自然体験活動などで、ふるさとを再発見する機会を設けた。	公民館ふるさと教育の実施回数	12回	(24回) 24回	(28回) 29回	(30回) 46回	32回	A 期待どおり	学校との連携が課題であり、学校が行うふるさと教育を発展、補充、深化する活動が効果的であると感じているが、前年度からの早めの協議や活動内容について説明が必要である。	公民館合同事業は、参加者の満足度が大変高い評判の事業と聞いている。公民館職員の熱意も伝わってくる。
				「美郷町 町づくりアンケート」で実施未達成ではあるが、R5より5%増えている。美郷町の良さを伝え、実感する機会を設定し、目標達成を目指す。	将来美郷町に住みたい(帰ってきたい)と答えた生徒の割合(中学校3年生)	62.0%	(50%) 64%	(60.0%) 45.0%	(70.0%) 50.0%	80.0%	B 概ね期待どおり	R7の目標値80%を達成するためには、ふるさと教育や多世代対話活動等とおして、地域に対する理解や貢献意欲を一層育てていく必要がある。	学校運営協議会(コムスク)とも情報共有し、取り組み必要がある。
		14 地域づくりを担う人づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代対話活動により、自分自身の生き方を考えたり、地域とつながる機会の充実 ・地域課題解決に取り組む実践者の育成 ・地域住民参画型の公民館活動の実施 	キャリア教育の実践 総合的な学習での職場体験学習(2年時・3年時)など	「将来の夢や目標をもっている」と答えた生徒の割合(中学校3年生)	57.2%	(70.0%) 62.9%	(75.0%) 63.3%	(75.0%) 75.9%	80.0%	B 概ね期待どおり	2年時・3年時で計2回の職場体験など、他の市町よりも充実した取組が行われているが、「当てはまる」50%(全国比+10%)、「どちらかと言えばあてはまらない」36.7%(全国比+17%)と二極化傾向が見られる。進路適正の吟味を目指した自己理解と情報活用能力の向上や主体的な学習態度の形成を図る必要がある。	
				○小学生と高校生 ・邑智小「みさと一く」への高校生の参加(10人) ・大和小「みさと一く」への高校生の参加(10人) 自分自身の生き方について考える機会を設けた。	小中学校における(美郷版力タリ場)に参加した大人(高校生以上)の人数	23人	(30人) 45人	(40人) 24人	(45人) 20人	50人	C 課題あり	学校との連携、地域住民の協力が課題である。協議を重ね、ねらいと活動内容、計画をより明確に関係者に示すことができるように努めていく。	大人とはしゃべることが出来るが、同年代の子ども同士での会話がスムーズに行えないといった保護者の声がある。学校間での交流事業の展開を期待する。
				地域課題(防災、つながりづくり、獣害対策等)に関する教室、研修会	公民館の「地域課題解決学習」の実施回数	10回	(12回) 8回	(14回) 9回	(15回) 26回	16回	A 期待どおり	各公民館において、課題意識をもって事業を計画、実施しており、参加者の課題に対する意識が向上しているが、継続していくことが大切だと感じる。	
				国指定の追加はなし	文化財登録件数	17件	(20件) 17件	(22件) 21件	(24件) 21件	25件	B 概ね期待どおり	国史跡の登録に限定せず、広い視点での文化財保存活用を進めることで、より多くの人の関わりを増やしていくことが必要	
	15 文化財の価値づけと維持保存、次世代への継承	<ul style="list-style-type: none"> ・石見銀山街道国史跡追加登録を目指す取り組み ・町内出身の作家作品など文化財の保存・活用 ・文化施設の利活用と文化振興 	邑智小学校での、ふるさと教育で銀山学習を実施した。	石見銀山街道を学ぶ学校数	0校	(3校) 0校	(4校) 2校	(4校) 1校	4校(全校)	C 課題あり	校長会等で授業実施の計画を呼びかけたが、実施は邑智小学校1校にとどまった。特に大和地域の学校への働きかけが必要であるが、中原家住宅等の見学でのふるさと学習は実施されている。		
			粕淵公民館で小原に関する歴史講座を実施	石見銀山街道を始めとする町の歴史を学ぶ公民館数	2館	(3館) 0館	(5館) 1館	(7館) 1館	9館	C 課題あり	他の公民館においては石見銀山街道を題材とした講座の意識が薄く、教育委員会からの働きかけや各館が取り組みやすいメニューの提案が必要である。		
			全体の概要をまとめたものを作成できていない。古文書を読む会にテキストを提供、は継続している。	古文書解説による町の歴史調査をまとめる取組が、6年度はできていない。	0回	(1回) 1回	(1回) 1回	(1回) 0回	1回	C 課題あり	内々の共有になっているため、より多くの人に伝える努力をしていくべきであり、古文書を読む会を活用して発表の場を設ける等、より多くの人に伝えていく必要がある。		
			小中学校については授業の1校の要望のみでその他の要望がなかった。公民館は中原家住宅の登録有形文化財について、都賀行公民館が主催となり生家見学などのイベントを実施した。	中原芳煙を題材とした活動の実施学校数	0校	(3校) 1校	(4校) 0校	(4校) 1校	4校(全校)	C 課題あり	校長会等で授業実施の計画を呼びかけたが、実施は1校のみであった。学校の授業の中にそれを組み込むことができるよう、地域の画家に身近に触れることができるような工夫を行う。	是非、子ども達に本物に触れる(鑑賞する)機会を創ってほしい。	
				中原芳煙を題材とした活動の実施公民館数	0館	(3館) 0館	(5館) 1館	(7館) 1館	9館	C 課題あり	地元公民館においては、登録有形文化財認定を機会に魅力を伝えることができたが、他公民館においては題材の取り上げを依頼するとともに、取り組みやすいメニューを検討し、公民館にレクチャーしていく必要がある。		
			②人権意識、生命の尊重	16 人権問題に関する学習機会の提供と差別をなくす実践力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・機関・団体のネットワーク強化 ・研修会や人権の集いを通じて幅広い年齢層へ人権啓発 ・部落差別解消への啓発活動推進 ・感染症に対する正しい知識の普及啓発と偏見差別防止 	町同推協議演説会5回 公民館人権講演会・学習会10回 連合自治会1回	人権・同和教育に関する研修会の年間開催数	10回	(15回) 18回	(16回) 15回	(17回) 16回	17回	B 概ね期待どおり
人権・同和教育連絡会議10回 みさとほっとあっと広場1回 みさとほっとあっと広場の準備及び人権週間に合わせた展示1回	人権・同和教育推進者連絡会議の年間開催数	9回				(12回) 10回	(12回) 12回	(12回) 12回	12回	B 概ね期待どおり	学校や地域(公民館、隣保館)、行政が連携することで、子どもたちが安心して生活できるよう、それぞれで確認しながら大切に会を行う。		
17 進路保障の取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路保障連絡会の開催と進路保障の視点に基づいた取組み支援 ・学校と地域が連携した進路保障の取組の推進 ・進路保障の視点に基づいた小中学校の取組み支援 	中学校では、生徒での情報モラルの研修会を開催したり、親子で楽しめるフォーラムの実施		「子どもの人権」を取り上げた研修会・学習会等の実施回数	1回	(2回) 3回	(3回) 2回	(4回) 1回	5回	C 課題あり	町人権・同和教育連絡会議において保育園、学校、公民館、隣保館等関係機関の参加により、最近の子ども様子について情報交換はできている。公民館においても「子どもの人権」を取り上げることで将来を担う子どものことも考える機会を促している。		
		多様性を認め合い、障害がある人となない人が分け隔たれず、共に学ぶ機会を保障するインクルーシブ教育の充実		人権・同和教育を根底にすえ、日常の全ての活動において、お互いをありのままに受け止め、認め合い助け合うことを大切にしていっていく視点を持って活動を推進した。	「人が困っている時は、進んで助けている」と考える児童数(小学校6年生)	88.5%	(88.5%) 95.5%	(89.0%) 93.3%	(89.5%) 89.6%	90.0%	B 概ね期待どおり	日常の全ての活動において、お互いをありのままに受け止め、認め合い助け合うことはできていると感じるが、同学年以外でも、助けることができるようなことを今後も推進していきたい。	
18	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性が認められる学校・地域づくり ・新型コロナウイルス感染関連差別の防止 			「人が困っている時は、進んで助けている」と考える児童数(中学校3年生)	88.5%	(95%) 81.4%	(95.5%) 90.0%	(96.0%) 84.8%	97.0%	C 課題あり	日常の全ての活動において、お互いをありのままに受け止め、認め合い助け合うことはできていると感じるが、違う環境においても、助けることができるような活動も今後も推進していきたい。		

基本方針	基本目標	施策	主な取り組み(事業)	令和6年度 事業内容と実施状況	教育振興基本計画の成果指標					事業評価	評価の説明、課題と改善策	外部評価委員の意見		
					項目	R03現状	(R04目標) R04現状	(R05目標) R05現状	(R06目標) R06現状				R07目標	
1 地域の力を活かした学校づくりの推進	19	地域全体で学校を支援する体制の整備	・学校運営協議会の設置と機能充実 ・ふるさと教育等、異校種間の連携	・邑智校区:4回 ・大和校区:3回 大和校区では、上記以外にCS委員会を2回、委員研修会を2回実施した。	学校運営協議会を設置している学校(コミュニティスクール)の数	0校	(0校) 0校	(0校) 4校	(各校区年4回) 邑智:4回、大和:3回	各校区年4回	B 概ね期待どおり	校区ごとという形で町内2地域での学校運営協議会設置をしているが、継続的に学校の負担感を増やすことなく地域と学校が共働できるよう、努めていく。		
				保育園と小学生の芋掘り、中学生の保育園・小学校での職場体験、小学生と中学生のふるさとカルタ交流など	異校種間の連携、保・小・中・高・大が一緒にする活動(授業)の実施回数	2回	(10回) 2回	(11回) 8回	(12回) 13回	14回	B 概ね期待どおり	接続校間の活動は比較的实施しやすいが、そうでない場合(特に高校・大学)は実施が難しい。参加者と繋がることで、継続して美郷町と関りが持てる様、努力していく。	町内をフィールドに活動する大学生が増えている。麻布大学生等との交流事業も必要ではないか。	
	20	地域学校協働活動への地域住民の参加・参画	・地域学校協働活動への参加促進 ・地域人材の発掘と活用及び公民館連携の推進	これまでの活動を継続して実施できており、子どもたちのために進んで協力してくれることが嬉しい。事前の打ち合わせにより、ほぼ目標どおりに活動が実施されている。	学校と地域住民が協働した(事前協議や振り返りを一緒に)活動の実施回数	25回	(27回) 29回	(29回) 29回	(31回) 32回	33回	B 概ね期待どおり	活動の改善のため、事後の振り返りの充実が課題であると感じるが、継続実施をしていくことで、子どもたちとの関係はつながっている。		
				ふるさと教育を中心に、地域住民が講師を務めたり、ボランティアとして活動に参加したりした。特に、大和地域での広がりがあった。 邑智地域118人/大和地域205人	学校支援に関わった地域住民の人数	160人	(185人) 243人	(190人) 245人	(195人) 323人	200人	A 期待どおり	これまでも、多くの地域の方に参画していただいているが、より多様な地域住民の参加、協力を進めることで、地域が元気になって行くと感じる。	大和地域の実績が邑智地域の実績を大きく上回っている。大和小学校登下校の見守り活動名など邑智地域でも同様な取り組みができないものか。	
	2 子どもを中心に据えた地域づくりの推進	21	地域学校協働活動(放課後支援)への地域住民の参画	・放課後子ども教室の企画運営に保護者や地域住民が参画 ・放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携	・モルック(3回) ・(中学生による)みつばち学習の化粧水・ハンドクリーム作り、おろちゲーム、美郷の地図の絵 ・あおぞらとの交流	放課後子ども教室、放課後児童クラブの活動に地域住民がスタッフとして運営に携わった活動の実施回数	0回	(2回) 3回	(3回) 4回	(4回) 7回	4回	A 期待どおり	特に子ども教室において、地域の方の企画による参画があった。今後も広く地域の方に積極的に関わっていただけるよう学校や地域と連携し、子どもたちが楽しめる取り組みしていきたい。	「A 期待どおり」に修正
					子育てに対する不安や悩みを解消する支援活動の充実	・家庭教育学習会や親子体験活動の実施 ・親学プログラムの実施 ・子育てサークル等支援	親子を対象としたふれあいフォーラム、防災、自然体験活動の中で、保護者の学びとつながりの機会とした。	1回	(2回) 1回	(3回) 2回	(4回) 3回	4回	C 課題あり	保護者の交流が少なくなってきたため、実施していくことが必要だと感じるが、単独の実施では参加者が少な傾向にある。参加してみたい活動を検討していきたい。
		23	学校を核とした地域づくりを目指した、学校・家庭・地域のネットワーク強化	・地域学校協働本部を整備し、学校運営協議会と連携・協働を促進 ・コーディネーター、社会教育士の養成	地域学校支援コーディネーターが学校や地域の要望を受け、活動のマッチングを行っている。これにより、ネットワークの強化が継続している。 邑智地域56件/大和地域37件	大和、邑智それぞれの地域学校協働ネットワークへの参加団体(個人)数	82件	(90件) 83件	(92件) 92件	(94件) 95件	96件	B 概ね期待どおり	学校と地域の線的つながりから、地域全体の面的なネットワークの充実を図っていく。	
					公民館における多世代交流の充実 ・他部局(福祉、地域振興)、社会による教育施設、福祉施設・団体、自治会等の連携事業の充実により、多様な人々が交流する機会を設定	公民館において、地域行事や自然体験活動などで子どもと高齢者の交流の機会を設定した。	公民館の多世代交流事業の実施回数	6回	(4回) 8回	(5回) 16回	(7回) 28回	9回	A 期待どおり	既存事業に加え、スポーツ木登り等新規事業が実施され大きく目標を上回った。 子ども中心の地域行事が定着することで、子どもも地域住民も楽しみややりがいを感じる。多世代の地域住民の交流、つながる場面を内容を工夫し、意図的に設定する必要がある。
	3 学校、家庭、地域の連携・協働による教育環境の充実	25	地域住民が主体的に学べる学習環境を整備し、住民の生きがいづくり、仲間づくりを支援	・公民館講座の開講と学習成果発表の機会を提供 ・美郷大学の開催	教養講座での学習成果の発表会を開催した。	公民館の学習成果の発表や展示会等の実施数	1館	(5館) 1館	(7館) 4館	(8館) 7館	9館	B 概ね期待どおり	地域のイベント開催時に発表を行うなどし、目標には達しなかったが昨年度より多くの公民館で実施することができた。 各公民館の実施、また受講生の活動発表の場を用意するという意識を持ち評価が感じ取れる工夫を更に進めていく。	
					館内展示の内容を工夫し、出版から年数が経過した本も利用者の目に触れるようにして蔵書冊数全体の利用割合を上げた。 本館のみならず、移動図書館先でも利用者に対して積極的に本の紹介を行い、貸出につなげた。	図書館「みさと本の森」の貸出冊数	50,530冊	(52,400冊) 95,395冊	(57,500冊) 49,900冊	(62,700冊) 52,359冊	68,000冊	C 課題あり	館内利用において、自主学習のみで図書館資料の貸出につながない利用者層があるので、館内展示などでアピールをしていきたい。引き続き、一般・団体に向けて有用性をアピールし、本を借りる以外のサービスも周知して図書館利用の間口を広げていきたい。	みさと本の森の職員は、図書館業務だけでなくみさと本の森の管理もおこなっている。業務内容の見直しや職員の増員を検討するべき。
		26	町立図書館「みさと本の森」の機能充実	・移動図書館事業の充実 ・公民館と連携してブックカフェを開催 ・図書ボランティアや子育て支援センターと連携し、親子読書を推進	口コミによる利用者の増加。 図書館の利便性の向上。	図書館「みさと本の森」の登録者数	1,571人	(1,630人) 1,627人	(1,750人) 1,693人	(1,880人) 1,760人	2,000人	B 概ね期待どおり	保育園や学校などへ積極的にアピールをする。 より良いサービスを提供するには職員の選書技術とコミュニケーション能力が必要不可欠になっている。 研修を継続し、職員が蔵書における知識を蓄えることを積極的に進めていく。	
					定期的な巡回先だけでなく、長期的なスパンで移動図書館を行える施設を掘り下げていく。	図書館「みさと本の森」の移動図書館拠点施設数	9箇所	(12箇所) 12箇所	(13箇所) 11箇所	(14箇所) 12箇所	15箇所	C 課題あり	コロナ禍以降訪問を控えていた福祉施設の移動図書館がやっと再開した。これかも発展を図りたい。 蔵書について、利用状況を確認しながら、蔵書構成を継続して刷新することにより、鮮度も上がってくるよう努力する。	図書館職員の研修等を実施してほしい。
27		スポーツを通じた青少年の健全育成と地域の活力醸成	・各種スポーツ大会、教室、体験会の開催 ・指導者の育成とスポーツ少年団活動の活性化 ・町民主体のスポーツ・レクリエーション活動の推進 ・2030国民スポーツ大会へ向けた機運の醸成 ・ジュニア対象カヌー教室の開催とカヌーサポーター制度を整備し、カヌー関係人口の増加を図る	利用者の希望する資料が多様化している。 県外の図書館にも依頼をし、資料を借り受けて対応している状況。	図書館「みさと本の森」の蔵書鮮度	6.3%	(11%) 5.9%	(12.0%) 6.1%	(13.0%) 5.5%	15.0%	C 課題あり	購入に対して蔵書構築の整理が進んでいない。特に廃棄は停滞しており、今後の課題である。鮮度を優先して需要が疎かにならないように対応する必要がある。		
				地域のイベントにおいての読み聞かせやお話会の需要が高い。 今後も既存の事業は実施しつつ、新しいお話を開催する。	親子読書事業の実施回数	3回	(2回) 4回	(2回) 2回	(3回) 3回	3回	B 概ね期待どおり	既存事業との差別化を図り、より魅力的なイベントを開催するにはボランティアの協力が不可欠なため、今後も連携を深めていく。		
27	スポーツを通じた青少年の健全育成と地域の活力醸成	・各種スポーツ大会、教室、体験会の開催 ・指導者の育成とスポーツ少年団活動の活性化 ・町民主体のスポーツ・レクリエーション活動の推進 ・2030国民スポーツ大会へ向けた機運の醸成 ・ジュニア対象カヌー教室の開催とカヌーサポーター制度を整備し、カヌー関係人口の増加を図る	町体協各競技部は競技の普及を目的とした各種大会を開催。その他、スポレク祭カヌーフェスタをはじめ、剣道連盟においては町内中学校による合同稽古会を実施した。	美郷町体育協会等団体による各種スポーツ大会、教室、体験会等の実施回数	7回	(8回) 8回	(9回) 9回	(9回) 8回	10回	B 概ね期待どおり	既存事業の他、新規事業(町産業祭にて剣道体験会)に取り組み、目標を達成することができた。 各種目においても競技人口の減少が課題となっているため、解決に向けた取り組みが必要。また、カヌークラブの自主事業の開催が求められる。			
			スポレク祭カヌーフェスタの中で、カヌー体験レッスンを行い、産業祭ではエルゴマシーンでの計測会とVRIによるカヌー体験を行った。 また、楽しく体験を鑑える内容のイベントを開催し、その中にカヌー体験が出来る要素も入れて、カヌーに興味を持ってもらうように仕掛けた。	ジュニアを対象としたカヌー教室の開催数	0回	(1回) 1回	(2回) 3回	(2回) 3回	3回	A 期待どおり	川本町との合同で行った島根中央高校カヌー部とのカヌー体験イベントは、ジュニアの育成に繋がる良い活動だと感じた。また山留学生の企画によるカヌーで遊ぶイベントも、邑智小大和小と両学校の児童が参加し、カヌーの魅力、楽しさを少しでも知ってもらえることが出来たと思う。 子どもの絶対数が減少していくなかで、如何にカヌーに興味をもってもらう、地域クラブへの加入や島根中高校カヌー部への進学へと繋がる仕組みづくりが求められる。	「A 期待どおり」に修正		
27	スポーツを通じた青少年の健全育成と地域の活力醸成	・各種スポーツ大会、教室、体験会の開催 ・指導者の育成とスポーツ少年団活動の活性化 ・町民主体のスポーツ・レクリエーション活動の推進 ・2030国民スポーツ大会へ向けた機運の醸成 ・ジュニア対象カヌー教室の開催とカヌーサポーター制度を整備し、カヌー関係人口の増加を図る	カヌーに関わる人を増やし、2025年インターハイ、2030年の国民スポーツ大会に向けて、大会の成功やカヌーの町づくりとしての地域振興の気運醸成に繋げる。 スポレク祭、産業祭、ササノオマジックわがわしやタウンデー等、町内及び町外でのイベント時にカヌーの町づくりを紹介し、サポーター登録者獲得のための活動を行った。	カヌーサポーターの登録人数	58人	(40人) 58人	(60人) 106人	(80人) 107人	100人	A 期待どおり	カヌーに関わる人を増やし、2025年インターハイ、2030年の国民スポーツ大会に向けて、大会の成功やカヌーの町づくりとしての地域振興の気運醸成に繋げる。 スポレク祭、カヌー体験イベントでカヌーの町づくりを紹介し、サポーター登録者獲得のための活動を行った。 多くの方にカヌー振興について知ってもらったことが第一なので、そういう面でも効果はあったと考える。 登録はしたけど、実際に活動することは難しいという方も居られると思うので、活動可能なサポーターを増やすことも考え、引き続きサポーター勧誘に努める。			